

【学校評価】(別紙「平成29年度学校自己評価」参照)

重点目標に対する自己評価

- 1 基本的な生活習慣の確立 B
 - ・時間厳守、挨拶励行、整理整頓を実践と規範意識の高揚を図る。
 - ・正しい携帯電話の使い方を指導する。
- 2 基礎学力の確実な定着と専門的な知識・技術の習得 B
 - ・個性や能力に応じた授業を実践し、一人一人の学力を高める。
 - ・資格取得、コンテスト、競技大会への挑戦など、生徒の実践力を高める機会を充実する。
- 3 ものづくり技術を生かした地域・国際貢献の推進 A
 - ・工業の特色を生かした地域連携・交流の推進に努め、積極的に情報公開する。
 - ・福祉教育をととした地域・国際貢献活動の推進に努める。
- 4 部活動の充実 A
 - ・自主性・主体性を高め、より高い目標に果敢にチャレンジする精神を育てる。
 - ・体力の向上と豊かな情操、さらによりよい人間関係を育成する。

評価結果に基づく今後の改善方策等

- ・「基本的な生活習慣の確立」の挨拶励行に関しては、アンケート結果から進んで挨拶をするようにしている生徒は、昨年に引き続き9割近くの生徒が実践している。しかし、「率先して清掃活動をする」、「マナー、モラルを守るように心がけている」生徒は、昨年度よりわずかに減少している。まだまだ意識の向上を図る必要がある。「正しい携帯電話の使い方」に関しては、生徒は、携帯電話の利用が友人関係のトラブルをまねいたり、犯罪に巻き込まれたり、本人にはそのつもりがないのに自分が誰かを攻撃してしまうなどの加害者になる恐れがあるなど携帯電話に潜む危険性については確実に認識してきているようである。しかし、その対処方法については、認識の薄い生徒がまだいるようである。さらに、トラブルになったとき、相談できる大人がいると回答している生徒は6割強で、昨年度より減少している。携帯電話の使い方だけでなく、安全への対応や安全への知恵を育成する情報モラル教育の充実を図っていききたい。
- ・「基礎学力の確実な定着と専門的な知識・技術の習得」については、生徒の学びたいという強い思いと、先生方の魅力あふれる授業・わかる授業の実践等の相互作用の結果、基礎学力の定着や専門的知識・技術の習得が本年度も達成できている。生徒の資格取得、コンテスト、競技大会への取組も意欲的に行われている。来年度も、継続と更なる向上のために取り組んでいきたい。
- ・「ものづくり技術を生かした地域・技術の習得」に関しては、アンケート結果に多少の増減はあるものの、全体としては高評価を得られている。今年度もさまざまな活動を行うことができた。ライトアップ「うずまの竹あかり」には今年から参加し、44本もの竹灯籠を製作した。また、テクノボランティアやタイ王国ボランティア交流活動においては、今までの功績が認められ、12月に東京で行われた「イオンeco-1グランプリ」の全国大会で、審査員末吉竹二郎特別賞を受賞した。一つ一つの活動が生徒の自信と栃工生としての自覚につながるようまたこの取り組みをより多くの方々知ってもらえるよう、校内はもちろん校外へもどんどん広報活動をしていきたい。
- ・「部活動の充実」については、90%弱の生徒が部活動に所属し、8割超の生徒が積極的に部活動に取り組んでいる。野球部、陸上競技部、バレーボール部、空手道部、弓道部が県大会3位以上の成績を収め、ソフトテニス部、剣道部が県大会ベスト8まで進出を果たした。活動が停滞している運動部はなく、『出ると負け(常1回戦敗退)』の運動部は存在していない。上位大会を目指し、日々の活動を充実させている運動部がほとんどである。文化部も、科学技術委員会を中心に、日々の活動を充実させている部が多く、ものづくりコンテスト・技能大会、ロボットコンテスト等、多くの大会で入賞者を輩出した。具体的な数値結果としては表われていないが、これらの活動状況を踏まえ、部活動が異年齢との交流を深め、幅広い人間関係の醸成に資する活動となっていると推察される。来年度も部活動全体の充実を図っていききたい。

【学校関係者評価】

評価結果

本校における学校運営全般に対する意見をいただき、本校の良い点や改善すべき点など客観的に自校を知ることができた。学校評議員からは主に下記のような要望があった。

- ・学習内容と社会との繋がりをきちんと分らせることが、生徒の学習に対する興味関心を持たせることに繋がるのではないかと。また、読解力、作文力、話す力を付けること、すなわち文系の教科の力を付けることが、数学、物理の内容理解に繋がるのではないかと。
- ・インターンシップを行う会社の情報を流さないように、SNSの利用方法について指導して欲しい。
- ・小学生のプログラミング学習に「こどもパソコンSkyBerryJAM」の活用は興味深い。高校生が教える活動はコミュニケーション力の育成になる。
- ・地域との交流活動が盛んであるようだ。生徒にとって、人に伝える体験は、貴重であるので、是非、続けて欲しい。
- ・生徒活動報告会は、学科の特色を生かした発表である。生き生きとした生徒の活動が見られて良かった。体を動かすことが好きな生徒が多いようだ。工業高校は実習などアクティブな教育活動があるので、それを授業評価アンケートに取り入れることを考えるべきではないかと。

- 1 基本的生活習慣の確立 B
 - ・時間厳守、挨拶励行、整理整頓を実践と規範意識の高揚を図る。
 - ・正しい携帯電話の使い方を指導する。
- 2 基礎学力の確実な定着と専門的な知識・技術の習得 A
 - ・個性や能力に応じた授業を実践し、一人一人の学力を高める。
 - ・資格取得、コンテスト、競技大会への挑戦など、生徒の実践力を高める機会を充実する。
- 3 ものづくり技術を生かした地域・国際貢献の推進 A
 - ・工業の特色を生かした地域連携・交流の推進に努め、積極的に情報公開する。
 - ・福祉教育をとおした地域・国際貢献活動の推進に努める。
- 4 部活動の充実 A
 - ・自主性・主体性を高め、より高い目標に果敢にチャレンジする精神を育てる。
 - ・体力の向上と豊かな情操、さらによりよい人間関係を育成する。

評価結果の公表に基づく今後の改善方策等

【学校運営に生かされた事例】

- ・「SNSの利用方法について」の意見は、本年度の努力点でもあり、全校集会やインターンシップの事前指導等を使って生徒への指導を行った。こどもパソコン「SkyBerryJAM」を使ったプログラミング出前講座や小・中学校での出前授業やテクニカルリペア活動、光と音のページェント事業への展示協力等、地域との交流活動を多数行い、生徒のコミュニケーション力の育成を行った。

【今後の取り組む改善方策】

- ・「基本的生活習慣の確立」、「基礎学力の確実な定着と専門的な知識・技術の習得」、「部活動の充実」については概ね満足できると評価されているが、時間厳守や整理整頓、基礎学力の定着については、具体的方策を示しながらさらに改善を図っていきたい。
- ・資格取得を推進したことにより成績が大変よくなった。今後も教職員への意識付け、生徒への働きかけ、講習会や補習等の充実により、各種資格試験に一人でも多く合格できるようにしていきたい。
- ・タイ王国ボランティア交流研修や空飛ぶ車椅子活動を今後も継続していきたい。
- ・起業家推進育成事業で開発したこどもパソコン「SkyBerryJAM」をより使いやすいパソコンにする研究やそれを使った小学生向けの出前講座や、地域の小・中学校での修理活動、「光と音のページェント」など本校の特色ある活動を今後も継続させ、生徒が主体的に取り組める環境を整えるとともに「輝く場面」を多く提供していきたい。